

## 経済学者，経済コメンテータ崔真淑さんによる， 理系も知らなくてははいけない今のグローバル経済学

Why Do We Need Economics?

司会

崔 真淑

エコノミスト

山中直明

慶應義塾大学理工学部情報工学科  
E-mail yamanaka@keio.jp

本稿は、慶應義塾大学理工学部学生向けに特別講演を行った内容をベースに、電子情報通信学会誌記事のために編集・制作したものである。

**【崔】** 今、何で日本の企業の元気がないのか。一つ言われているのが、特に日本の製造業がハードとソフトの分離に遅れたからじゃないかと言われています。

今、日本の産業、世界の産業の主流となっているのがデジタルであるソフト産業です。ビッグデータを扱うことであったり、人工知能であったり。正に皆さんの得意分野だと思います。

ものづくり最高だねって言われていた社会から、ハードとソフトの分離が起きたことで、ソフトの社会に拍車をかけたのが、パソコンの変革だと私は考えています。

そういったパソコンの時代の次の時代、何が起こるか。皆さんスマホとかはお持ちですか。ガラケーの人っていますか？ 多分あんまりいないと思いますが、ガラケーを持ったことがある方っていらっしゃるでしょうか。(ちらほら手が挙がる)

ありがとうございます。

日本では三菱電機も NEC も富士通も東芝もシャープもサンヨーも、皆ガラケーを作っていました。でも気づいたら日本のメーカ、ほとんど携帯電話スマートフォンを作っていません。何が起きたのか。ガラパゴス携帯と言われるだけあって、あの当時もすごい携帯電話がたくさんあったのです。でも携帯電話そのものを買えばいいと、新しいソフトも変えられないという、そういう時

代だったんです。そこに革命を起こしたのが Apple です。ハードとソフトの分離を、携帯電話にも導入したと言われています。この iPhone、アプリを自分で消したり入れたりすることで、好き勝手にソフトをインストールできますよね。何なら iOS のバージョンアップも勝手にやってくれます。中身、ソフト、ハードを買い替えずにでもできます。そのハードとソフトの分離が今、スマートフォン、携帯電話に起きたことが日本の電機メーカが携帯電話を作らなくなった原因は、そんなところにあるんじゃないかと言われています。

ですから私が何でこんな話を冒頭でしたかということ、GAFA (Google, Amazon, Facebook, Apple) ってすごいね、何かすごいらしいよ、だけではなく、なぜ日本がその中に入れなかったのか。それはアメリカの GAFA をはじめ、デジタル企業がハードとソフトの流れを次々に作っていったことがあるんじゃないかっていうことをお伝えしたくて、お話をさせていただきました。

じゃあそのデジタルの世界でハードとソフトの分離の流れにどんどん乗っていった GAFA はそもそもどんなビジネスなのかっていうことを見ていきます。そもそも GAFA とは？

まず Apple っていうと iPhone。iPhone ユーザの方どのくらいいますか？ (約半数の手が挙がる) ありがとうございます。高いっていうよりは皆さん使いやすいからそのまま使っちゃうなっていう方が少なくないと思うんです。Apple っていうのは売上高の 63% が iPhone の売上です。正に、メーカのようなそんな形になっていきます (図 1)。



司会：山中直明  
慶應義塾大学理工学部教授



崔 真淑：エコノミスト  
(株)グッド・ニュースアンドカンパニ-ズ代表取締役/日経 CNBC 経済解説委員等  
多数

でも Apple は単に物を売るだけではなく、ハードとソフトの分離を引き起こしただけあって、サービスや音楽聴き放題の事業を行っています。

## 用語解説

**フリーミアム (Freemium)** 基本サービスを無料として多くの顧客を集める。その中で一部のユーザが有料サービスで利益を上げるビジネスモデル。特にソフトウェアサービスは、ユーザ数が増えてもコストが大きくなりなないので、ゲーム等無料サービスを提供し、大きな利益を出せる。

**サブスク (サブスクリプション)** 「月額課金」や「定額課金」でサービスは無制限に利用できるサービス。動画配信や音楽配信・漫画の定額読み放題から始まり、最近は日用品や衣類でもサービスが始まった。

**アルゴリズムトレーディング** 株や商品先物等の金融商品のトレードをコンピュータシステムが金融工学を駆使して、過去の値動きから判断して取引を行う手法。証券会社、ヘッドファンド、機関投資家ではポピュラーな取引手法。

**シェアリングエコノミー** 「個人資産」を使っていないときに(遊休資産)、他の個人に貸出しをすることにより資産の有効活用をする。例えば、使用していない別荘や自動車を他人に貸し出すビジネス。

**限界費用** 売上高から変動費を差し引いたのが「限界費用」。変動費は売上高の増加とともに増加する傾向があるが、デジタルやインフラ企業では低減することがある。例えばメルカリのようなデジタル企業は個人売買サイトを構築した後、利用者がどれだけ増加しても変動費は同じようには増えず、利用当りの「限界費用」は限りなくゼロとなる。

**ジニ係数 (Gini Coefficient)** 所得のジニ係数は0から1で表され、0であるときは全ての人の所得が等しい状態であり、1であるときは、ある集団のうち1人が全ての所得を有している状態である。直接、税社会保障により、再配分をして0の方向へ調整する。

**消費者余剰** 消費者が実際に払っていいと考えている金額からその商品の価格を差し引いた金額。いわば消費者の「お得感」や「満足」。

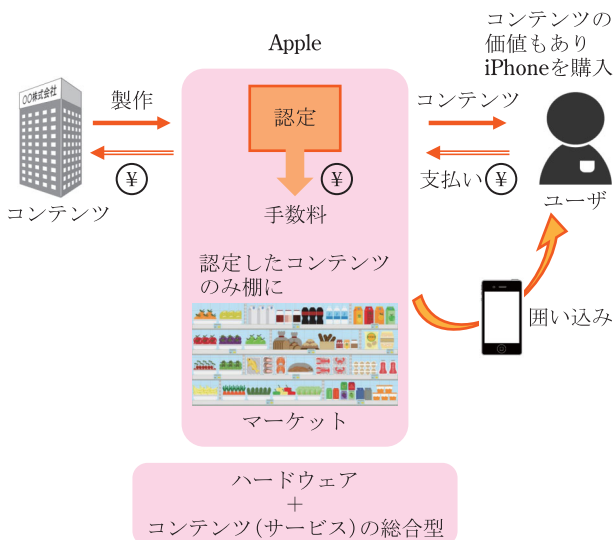
iPhone 上でサービスをするには、Apple を通さなければならず、いわば、この iPhone が強力なプラットフォームになっていて、ソフト会社もゲーム会社も音楽も Apple にお金を払わなければいけないシステムになっています。

この Apple はどういう状況になっているのか。実はこの iPhone の売れ行きがどんどん落ちてきている。メーカーが携帯電話を売るだけでは立ち行かなくなっています。じゃあ Apple は今何をしているのか。最近 Apple カードを出しました。Apple カードを聞いたことがある方は少なくないかと思うけれど、とうとう Apple はコンテンツやものを売るときに、自分のところのクレジットカードを使ってもらい、金利を稼いだり、データで次の商売に使おうと転換しようとしている。

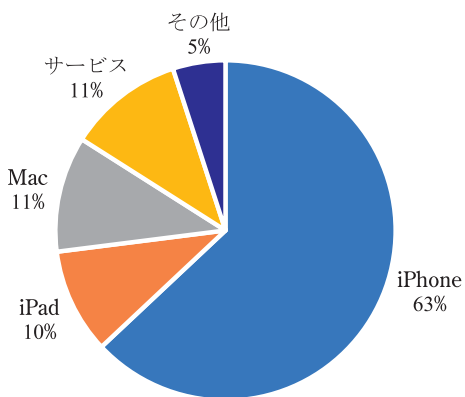
次に Facebook。売上高の97%は広告です。圧倒的に広告です。広告に依存し、かつ GAF A の中でも極めて営業利益率が高いのです。なぜか。例えば、Twitter は匿名でできます。そうするとデータを取得しても男性と登録していても女性かもしれないし、嘘ついているかもしれないから、匿名性の高い SNS はデータの精度がかなり悪いです。

そうすると広告を提供してもらおうとしても効果が出にくいということがあがる。でも Facebook は実名ありきです。しかも皆自分の個人情報や個人的なセンシティブな内容をどんどん投稿します。インスタグラムもそう。そうすると、非常に精度の高い広告を打てるので利益率もいい。広告料で稼ぐというのが Facebook のビジネスモデルになっています(図2)。

では Amazon は何で稼いでいるのか。7割以上が e-コマースです。私も超ヘビーユーザです。でも最近 Amazon は映画を作ったり音楽を配信したりして、どんどん e-コマース事業で蓄えたデータをベースに、こう



(a) ビジネスモデル



時価総額 7,848億ドル  
2019年1月末時点, 小数点以下は切り捨て  
出典: アップルの決算資料から

(b) 売上構成

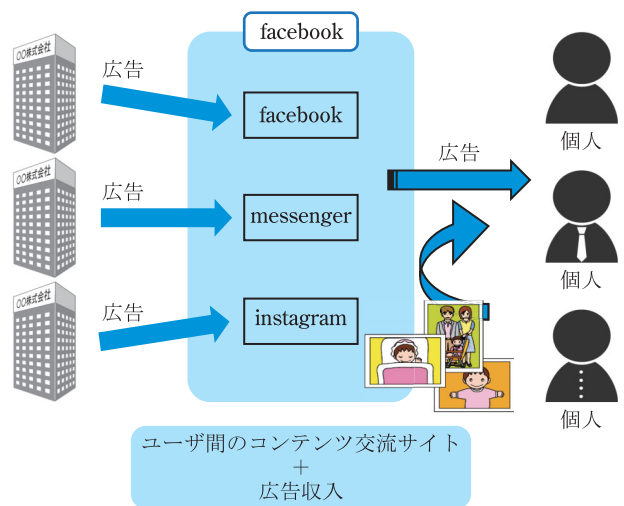
図1 Appleのビジネスモデル (出典: 文献(1)から一部修正)

いうコンテンツを出すともうかるかなということでコンテンツ事業強化しています (図3)。

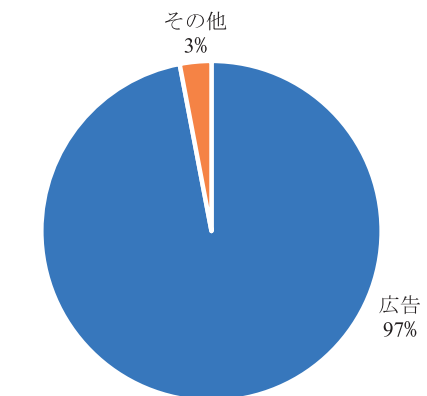
Googleは86%が広告で稼いでいる会社です。でも広告依存度が高いことをGoogleは非常に懸念しているので自動運転や、違う事業にどんどん投資しているのですが、なかなかそこで花が開いていない状況です。ここまですがGAFのビジネスモデルです (図4)。

では、ジャンルで分けるとどうなるのか。図5を見て下さい。

一つはまずは広告収入で稼ぐデジタル系・ソフト系の企業。二つ目は最初の入口は無料だけれども、更によりよく使うならお金を課金させますよというフリーミアム<sup>(用語)</sup>。そして更にはサブスク<sup>(用語)</sup>という言葉もありますが、定額制サービス、Appleミュージックやファッ



(a) ビジネスモデル



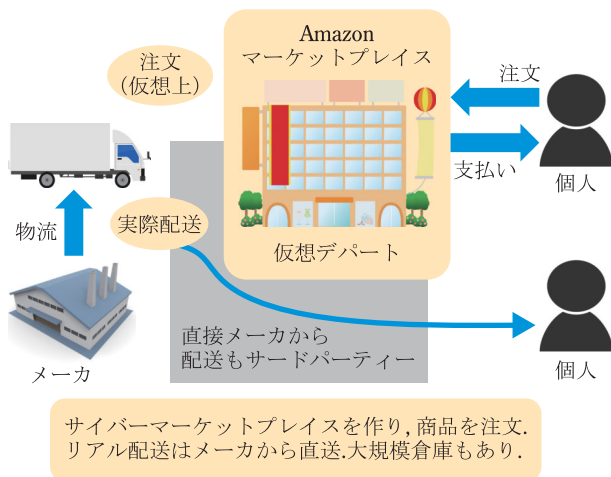
時価総額 4,757億ドル  
2019年1月末時点, 小数点以下は切り捨て  
出典: フェイスブックの決算資料から

(b) 売上構成

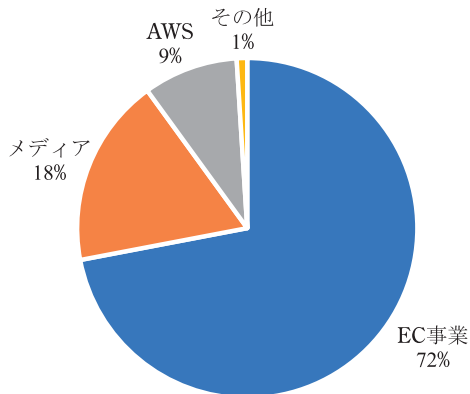
図2 Facebookのビジネスモデル (出典: 文献(1)から一部修正)

ションもそうです。そして、マッチングサービス。ウーバーを海外で使ったことがあるかもしれないのですが、日本だと車のシェアリング、メルカリなどで手数料をもらうビジネスです。これは物を売ったり買ったり、作ったりではなく、利用を促進するビジネスです。今から社会で活躍する学生の方々は、この経済の変化を理解して下さい。現在は、この四つにデジタルビジネスモデルを分けることができると思っています。

次に、それがアメリカ経済をどのように動かしているのかイメージして頂きたいと思います。アメリカのGDP成長率を出します。リーマンショックがありました。当時ゴールドマンサックスという投資銀行がありましたが、そこは入社1年目で年収1,000万を超えていました。投資銀行はもうかっていんです。もうかってはいたんですが、リーマンブラザーズという投資銀行が破



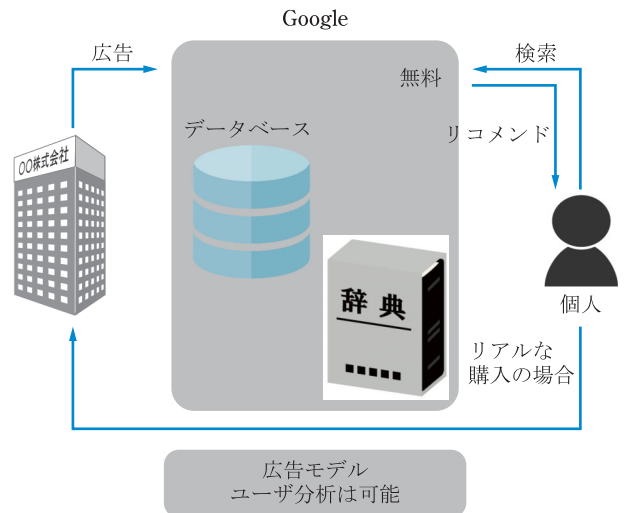
(a) ビジネスモデル



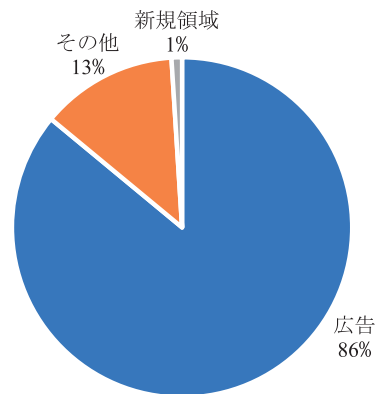
時価総額 8,404億ドル  
2019年1月末時点, 小数点以下は切り捨て  
※AWSはクラウド事業のアマゾンウェブサービス  
出典:アマゾンの決算資料から

(b) 売上構成

図3 Amazonのビジネスモデル (出典: 文献(1)から一部修正)



(a) ビジネスモデル



時価総額 7,796億ドル  
※アルファベットの時価総額  
2019年1月末時点, 小数点以下は切り捨て  
出典:2018アルファベット決算資料から

(b) 売上構成

図4 Googleのビジネスモデル (出典: 文献(1)から一部修正)

綻したことによって世界的な金融ショックが引き起こされました。それによりアメリカの経済成長率はぐんと下がったんですが、その後は回復してきています。

なぜ回復したのかということ、いろいろな経済学者が検証しています。

リーマンショックの後にビッグデータ、ソフトのブームが起きました。アメリカの雇用の推移などいろいろ見ていくと、ある傾向が見られました。あくまでも仮説の話です。

リーマンショックが起きる前は、理工系の優秀な方が投資銀行へ積極的に採用されていたんです。金融工学というものを使って、株のトレーディング、債券・為替・保険の運用をしていました。アルゴリズムトレーディング<sup>(用語)</sup>がされていました。でもリーマンショックによっ

て、誰がクビになったかという、理工系の優秀なエンジニアリングや運用に関わっていた人がばっさり切られました。じゃあ、その優秀な人はどこに消えたのか。Google, Apple, Facebook, Amazonなどデジタル企業、まさにソフト産業で頑張っているところに流れたことがビッグデータや人工知能のブームに影響していると言われています。景気が悪くなっただけではなく、優秀な人が次世代産業に移ったことが経済成長率の背景にあるんじゃないかと言われています。これは日本に大きく欠けている人材の流動性です。

実際にそれを示しているように(図6)、リーマンショック前の時価総額のランキングを見てみると、2008年は1位が石油のエクソンモービル、2位がスーパーマーケットのウォルマートストア、P & G、マイクロソ



図5 多様なデジタルビジネスの台頭 (出典: 文献(1)から一部修正)

フトというふうになっています。でも10年でがらっと変わりました。2018年からは上から順にApple, Amazon, アルファベット, マイクロソフト, Facebookとなっています。

アメリカは優秀な人材が流れ、産業をどんどん盛り上げていく。じゃあ日本はどうか。

日本もすごい時代がありました。世界の億万長者ランキングを見ると、1990年代中頃までは世界のランキング上位は全部日本の経営者だったんです。西武鉄道グループ、森ビルがずっと世界ナンバーワンのお金持ちだったんです。だけど2018年のランキングを見てみるとAmazonのジェフベゾス、マイクロソフトのビルゲイツが上位で、日本のソフト産業のソフトバンクはどこかというところ39位に入っています。1990年代中頃までは世界の主要産業は不動産と金融でした。ここでいかにもうけるかが億万長者になれるかどうかであり、企業としていかに評価されるかの軸だったんです。だけど、先進国を中心に皆ものをいっぱい持っているし、シェアリングエコノミー<sup>(用語)</sup>なんて言葉が出てきてものを持ってなくても社会が回り、加えて金余りも重なることで、金融業がもうかりにくくなっていきます。そこで活躍し始めたのがテクノロジー業です。そういったところから、ハードではなくソフトの企業が、現代の億万長者のランキングに入っているのではないかとされています。

ちなみに図7にあるように、1989年の時価総額ラン

2008年

1位	エクソンモービル
2	ウォルマートストア
3	P&G
4	マイクロソフト
5	ゼネラル・エレクトリック
6	AT&T
7	ジョンソン&ジョンソン
8	シェブロン
9	ファイザー



2018年

1位	アップル
2	アマゾン・ドット・コム
3	アルファベット
4	マイクロソフト
5	フェイスブック
6	パークシャー・ハサウェイ
7	JPモルガン・チェース
8	ジョンソン&ジョンソン
9	Visa

2018年にはデジタル企業と金融が大多数を占める。私たちがここから読み取るべきなのは、日本企業と比べた際の、この10年でのアメリカの産業構造の大きな変化だ。

10年後も上位に入っているのは2社のみ

図6 アメリカにおける時価総額上位企業 (出典: 文献(1)から一部修正)

キングは、世界の1位2位3位は全て日本の企業でした。このときは、NTTと銀行2社です。現在は、Apple, Amazon, Googleで、ちょっと下にいくとトヨタ自動車があります。いかに産業が変化しているかがランキングを見ても分かりますよね。

何で日本がそれに乗り遅れたのか。実証研究では、日本の企業が研究開発費に無形資産投資を満足に行っていないことが原因という指摘もあります。もう一つ考えられるのは、日本企業のインセンティブ設計が時代と合っていなかったことです。エンジニアに対して終身雇用を約束するから安い給料でずっと働いてね、ではなく、良いものやソフトを出したときにどれくらい分け前を与えるかというインセンティブ設計が非常に遅れていた。だからソフト産業に乗り遅れたと経済学の視点では考えることができます。

それでは、討論会にして学生の人たちから質問や議論を求めてみましょう。

まず質問がある方。

**【学生】** 長者番付の順位が変わったということですが、

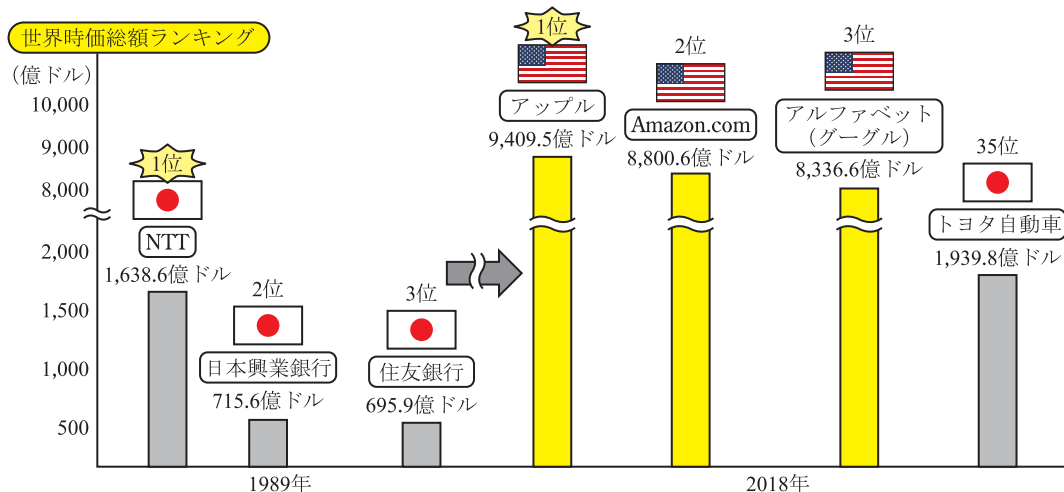


図7 世界で活躍する上場企業 (出典: 文献(1)から一部修正)

金額自体も相当変わっていますが、それはデジタル産業へ変化したことによるものですか？

**【崔】** すばらしい視点ですね。デジタル産業と金融・不動産と何が違うかという富やデータが集約されやすいところに特徴があると思います。一つ言われているのが限界費用<sup>(用語)</sup>ですが、その先は長くなるのでディスカッションにて。

**【司会】** 私と崔さんとしゃべっているとき、聞きたいことがあれば割り込んで発言して下さい。

以前日本もアメリカも基本はものづくりの産業でした。アメリカのUS スティールや自動車会社のフォードも飛ぶ鳥を落とす勢いだった。ものづくりの産業のときは、アメリカは日本に出し抜かれたと思っていた。国全体のGDPの伸び率を見ると、アメリカの方が日本より、とんでもなく伸びているわけではなく40%高いだけです。しかし億万長者はすごい数だし、特定の1企業の売上げは著しく伸びている。何が起こったかと言うとデバインドなんです。もうかっている人と貧乏な人ができて。トータルのパイの奪い合い、という見方はどうですか？

**【崔】** 格差の話だと、確かに先生のおっしゃるとおりです。厚生労働省のサイトに行くとジニ係数というのが発表されています。所得に関しての格差があるのかというのを示したものがジニ係数<sup>(用語)</sup>といいます。この係数は普通に見ても意味はありません。国にはそれぞれ生活保護や医療控除など再分配の仕組みがあります。貧しい人にはちゃんとお金を持っている人から分配するようになっています。なので再分配された後のジニ係数があるんですが、アメリカではどんどんジニ係数が上がっていて所得の格差が非常に進んでいます。一方で日本はどうなのかというと、格差社会という言葉がありますが、安倍政権が始まってからジニ係数は下がっているんで

むしろ格差が縮小しています。じゃあ日本は豊かな国で皆平等で最高なのかというと、皆が平たく貧しくなったんじゃないかという意見もあります。統計にカウントされていない人もいると言う人もいますが、所得格差という点では、アメリカでは広がっています。でも一方ではそうじゃない国もあります。

**【学生】** 統計にカウントされていない人というのは、そもそも調査に外れている人や、すごく裕福な人は日本にいない可能性もあるということですか？

**【崔】** そうですね。日本の税金は高いんですよ。所得税率も、1,100万を超えてくると、半分ぐらい税金で持ってかれちゃいます。でも法人税は安いです。

更に日本の税制でいうと世界より突出して安いものがあるんですが、それは配当です。配当や株式に関する税が非常に安いです。だから統計に入っていない人は、例えば上場企業の役員は給料を安めに設定しても配当という形でもらっているかもしれないので、そういったところで日本の格差が縮小しているように見えるかもしれない。

**【司会】** 日本が皆一様に貧乏になったということはないと思います。「デジタル資本主義」という本を読むと、実は皆ものを欲しくなくなっている。インターネットもあるし、YouTubeを見てゲームして結構幸せで楽しいんです。GDPという値が、昔の経済学、ものを売ったときの利益の尺度で、貧乏の定義が古いのではないですか？

**【崔】** おっしゃるとおりだと思います。無料で使えるものに対する利益とか満足度が統計に表れていないからGDPで見ると日本は元気でないように見えるかもしれ

**【学生】** 主に慶應義塾大学理工学部及び理工学研究科学生

**【聴衆】** 教員・研究員その他社会人と思われる参加者

ないけれど、実は違うよという視点はあると思います。だけど時代遅れの GDP や経済指標の意味がないというわけではないと思うんです。なぜかという、幸せとか満足度は、経済学の概念だと計測が難しいんです。そんなあやふやなものを OK にしてしまうと、政策の意思決定のときに幾らでもゆがみが出てしまう。だから数字として分かりやすい経済成長っていうのがあるのは悪くないと思っています。二つ目の理由は、ほんとにただなんですかね？ ゲームただでできますとか、Facebook ただでできますとか、これほんとにただなんですかね？ 考えてみたいと思います。なんで Facebook も Google もただで検索できたり、SNS に投稿できるんですかね。

**【学生】** 広告を継続的に続けることで、無意識的に広告費を使っているから。

あとデータ。つまり自分の情報をお金の代わりに出しているから、金額的には無料サービスに見えています。

**【崔】** データ、自分の情報を出しているからですね。自分のセンシティブな個人情報を企業に提供、ただ漏れの状態だから無料で使えるわけです。私たちの世界ってというのは資源は全て有限です。無限ではありません。

やはり何か提供しているわけです。データを提供することによって実はコストが下がっているということを考えてデータを知らないところで使われているという対価を払っている、ということも考えられているんです。だから無料でなんでも使えるから、私たちものはいらぬ世代だからいいじゃない、ではなくて、曖昧なところで許してはいけないと思うんですね。

**【司会】** 曖昧にしているんじゃないで、曖昧なものってどうやって数値化するんですか。要するに、じゃがいもを買って 100 円で払えば明らかにこれは経済数値が出てきます。我々の個人情報を与えて豊かさを感じたってこれは GDP はゼロになってしまう。元々 GDP は豊かさの指標であり、それが計測できにくくなっていませんか？

これは幾らやっても、日本は貧しい貧しいと言われちゃうんだけど、それは発展途上国で農業を中心としてやっていてじゃがいもの数が増えた方が数値的には GDP が伸びているんです。個人情報という僕のお金じゃないところを支出して、それで YouTube 見て、1 日過ごして、面白かったって言ったとします。金額には見えにくい消費者余剰<sup>(1)</sup>をどうやって評価するか教えてください。

**【崔】** そういった無料のものを使ったときにどう幸せを感じたかの指標って、数値として表さないでどうするんですかっていう質問ですが、主に二つあると思っています。

一つは最近国民幸福度という幸福度指数というのがあります。私はあんまり好きじゃないんですが、ああいっただ指標が一つと、もう一つはもう分かりやすく Face-

book, Google, Amazon, Apple の業績だと思うんです。みんなが満足していなかったら誰も Facebook 使わないし、誰も Google 使わないし、業績の推移を見ると、みんながいかに満足しているかっていうことの一つの代理変数としては使えると思うんです。

**【司会】** ありがとうございます。先生をお迎えているんだから、自分たちはどういうところで活躍したらいいかというヒントを、学生の人は見つけて下さいよ。明らかにものを作って売る時代じゃない、安いものを作って競争すると日本は有利じゃないということは分かっている。けどもここに出ている GAF A と同じモデルで、僕たちがやるべきかということも、きちっと考えてほしい。

**【聴衆】** GAF A のあるところは数千人のエリートの人が高い給料をもらっているんです。一方、日本の代表的製造業は、関連を入れて、100 万人の人が毎日家族でご飯食べている。ほぼ同じ企業としての価値があったら、これは後者の方が日本としては豊かになるだろうと僕は思っています。

極端にいうと、要するに黒字にならなくてもいいんじゃないか？ 利益はゼロでもいい。赤字になったら困るけれども、ゼロだけどいばいの人が働いて、ある程度いい給料もらって、子供が学校に行って、家や車を持ってご飯食べている。その人数が多い方が、数千人のあるエリートが億に近い給料をとる会社と、どちらが本当の意味で国が豊かになるか。Amazon の創業者の個人資産は 20 兆円を超えているんですよ？

**【崔】** じゃあそれに私は反論させていただきます。

一橋大学ビジネスレビュー 2014 年の投稿論文を見ると、IPO、上場した会社がどれだけ雇用を生み出したかということの研究されているんですが、これを見てみると、アメリカやイギリスで直近この 10 年間で上場した企業というのは 1 企業当りの雇用者が多い。でも日本の場合にはたくさん企業が上場している割には全然雇用数の増加が小さい。正確な数字は覚えていないんですが、圧倒的に数字が違っていたのは印象として残っています。だから先生のおっしゃるとおり、それはそれで豊かかもしれないし、いいかもしれないけれど二つの理由で反論したい。一つは、そういうモデルはどこまでいつまで続くんですかっていうことに対する疑問、そんな利益 0 の企業に誰が出資するのでしょうか。二つ目は、直近のベンチャー企業や IPO したっていう、そういった企業は相対的に雇用は生まれていない。これは長期的に大問題であるとも言えます。成長なんてなくていいという考えもあると思いますが、それはそれで課題も多いでしょう。

**【学生】** やっぱりアメリカンドリームという言葉があるように、アメリカは成功したらすごい報酬をくれるじゃないですか。その代わりに日本は皆平和に、ある程度高い

水準で暮らしているんですけど、そしたらやっぱり優秀な人ってアメリカに流れると思うんです。でもアメリカで7割ぐらい失敗するんですよ。その7割の失敗した人を日本へ持ってくるように、そういう働き方をするっていうのはどうですか？

**【崔】** すばらしい、いい視点だと思います。ありがとうございます。

最近、元 Google です、元 Apple ですっていう人がやたら本を出版しているんです。そういう人たちは、アメリカで産業を興すのはさすがに競争が激しいし無理だから、日本に帰ってきたという人も少なくないのです。だから、優秀な人材を、アメリカ国家大学じゃないですけど、優秀な人材をアメリカで育ててもらって、そこでうまくいかなかった人が日本に戻ってくるというモデルが、もしかしたらもうできているかもしれないし、間接的には富が一国に一極集中しているのではなくて、日本にも好影響があるのかなと思いました。

**【司会】** 日本のサッカーが強くなったのは、ヨーロッパでもまれる選手が増えたからという考えですね。ヨーロッパでサッカーをして高給をもらう。またそれを目指す人がいっぱい生まれる。海外で活躍することは、すごく大切です。昔はサッカーも野球もラグビーも世界で活躍する人なんか皆無だったんですよ。それが増えると同時に日本のレベルは飛躍的に向上しました。テクノロジーも狙いましょう。

**【聴衆】** 先ほど崔さんが日本は大きいベンチャーが生まれていないと言っていたけれど、とにかく労働者の流動性が低過ぎる。会社潰した方がいい。ちょっと調子が悪くても一生懸命持たせますよね？ 国の産業再生機構じゃないけど。そういうことをむしろしないで、どんどん潰す。どんどんクビにして、優秀な人は新しいいいところへ行っちゃう。普通の人でも皆必死にもっといいところへ行こうとする、そういうモチベーションが持てる。リストラをするとネガティブに聞こえちゃうけれど、その分必ず雇用が生まれる。リストラして楽になった分どこかで投資してそこに雇用が生まれる。だから循環していく。そういうふうにも考えてもいいです。日本はリストラという言葉が嫌いでそういうことをやらないから新しい産業が生まれなくて人の流動性が出ないというところがあるのではないですか？

**【学生】** 僕は全然詳しくないですが、ビートルズのメンバーは売れても99%は税金で搾取されちゃう、だからアメリカに流れたと。だから残ったメンバーが不幸でないのかなって思うんですけど、日本が稼げば稼ぐほど税收で取られていってしまうわけじゃないですか。優秀な人材がアメリカに流れるのはすごく当然だなと思うし、大企業モデルじゃないと、優秀過ぎるとアメリカに流れてしまうのは当然なので、今の制度だと新しいモデルがあっても無理なんじゃないかなと。

**【司会】** 優秀な人が税金で搾取されるっていうのは違って、税金は利益の再分配って言うけれども、優秀な人がお金持ちになって、そのまま逃げるのがいいのか、それを再分配して回り回って社会全体が豊かになるということを考えて下さい。お金持ちになるイコール、社会の成功者はもちろんお金持ちになってもらうと同時に、自分の利益だけではなく社会全体の幸福に貢献していくべきです。税金が安いから勝ち組がアメリカに行って、負け組が日本に来るっていうのはちょっとまずいんだけど、必ずしもホームレスがいっぱいて、税金が安くて勝てばいいとかは考えません。

**【学生】** 僕は司会の先生の意見を擁護しようと思っているわけではなくて、僕の当初の意見としては日本のモデルは日本のモデルであるので、アメリカはすばらしく日本の大企業モデルを極端に古臭くてダサいっていうのは間違えていると感じます。

**【崔】** あ、そういうつもりじゃないです。

そういう雇用モデルってすばらしい側面もあると思うし、今までいろいろな人が満足しているから続いていると思うんです。そこに日本の税制とかいろいろなものがフィットしていたのです。ただここにきて経団連が副業解禁するから終身雇用を辞めますと言い出したり、雇用者を切りやすくします、とか大企業の偉い人たちに言い始めていることを踏まえると、今の若い人たちが終身雇用ありきで就職を考えないでほしいのです。

**【学生】** モデルがどんどん変わっているみたいなのですが、だんだん日本もアメリカっぽくなってきています。日本が受け継いできたモデルもあるけれど、これから僕らぐらいの中上流ぐらいの技術者が何を求めて技術を生かしていったらいいのか。アメリカでうまくいくことを求めてやっていけばいいのか、日本の、多くの雇用者を作るベンチャーをつくる考え方をしていくのか、正義なのかっていうのは、何がいいと思いますか？

**【崔】** 正義は主観なところがあると思うので、何が正しいかは言えません。これを言ったらおしまいな話なんですけど、好きなことをやったら一番いいと思うんですよ。

やっぱりチャンスがあるならアメリカに限らず中国とかでエンジニアとしてスキルを磨いて次に日本に戻ってくるとか、そのままいるとか、もっと違う国に行ってやってみるというのもありだと思うし、私がかもし皆さんの年に戻れるのであればそうしたかなあと思ったりします。

ずっともうかり続ける企業も、ずっともうかり続ける産業もありません。なぜか。私がリーマンショック直前の2008年春に投資銀行に入ったんですが、それまでは投資銀行はもうかってもうかって仕方がなかったです。私も投資銀行に入社したときにすごくうれしくて、30歳までに年収1億ってやると本気で言っていたんで





講演をする崔さん

す。だけどころとそれがもうからなくなった。GAFAもそうです。デジタル企業も今、公正取引委員会やいろんな政府機関が個人情報データ規制やいろんな規制を掛けようとしています。いつまでももうかり続ける企業も産業も中々ありません。つまり、GAFAの終えんも遠くない将来に訪れる可能性があります。産業は流転すると思うのです。なので、一番はこの道に入って後悔しないなというところに就職したり、そういう働き方をするのがいいと思うのです。身も蓋もない話になっちゃいますが、それをお伝えしたいなと思います。

**【聴衆】**「私のデータ使わないでね」「私のGPS使わないでね」って言うと、GAFAのサービスが受けられない。使うためにはYESって言わなきゃいけない。これアンフェアだと思いませんか？ それをどう使うのか全然コントロールされていない。ヨーロッパはデータを持ち出すことすら厳しい。だからGAFAはいろいろな問題が制限として表れてきます。ここが絶対、永久的に勝つからここに就職しようなんていうことは考えない方がいいね。ただ、彼らは一点だけとてつもなく優れている。これからの時代がビッグデータで、データサイエンスに基づいた時代が来るということをすごく以前から理解していて、それに備えている。そこは偉大で優秀だと。だからそういうところは、我々も真似しなきゃいけないと思います。

**【崔】**GAFAがいつまでも続くかどうかは分かんないんですけど、何だかんだでアメリカ的な流れに、日本もヨーロッパもなるのかな、なんて思っています。理由は、EUが今度GDPRっていう規制を施行して、個人情報を入力した場合は個人に許可を取りなさいということは言っているんだけど、そういう規制を余りにしてしまうと、Gmailを使うのに有料になってしまったり、GAFA側もどこかにコストを掛けなきゃいけないと思

うんです。使いにくくなったりユーザフレンドリーじゃなくなるっていうのがあると思うんですね。じゃあ国民に何かのツールを使うときにコストを払わせる国と、そうじゃなくてデータをどんどん提供していいから無料なものをどんどん使えるよという国に分かれると思います。そうしたとき、どちらの方にいろいろな企業が起業したいかな、新しいビジネス始めたいと思います？ 私は、アメリカに流れると思うんですね。結局、世界はアメリカ型に取れんする可能性があると思っています。

**【司会】**慶應義塾大学の法学部の山本龍彦教授がGAFAの戦略と日米欧の潮目が変わったことを講演されていました。多分、崔さんとちょっと違う見方でした。

**【学生】**自分的には、インターネットが今広がっていて、インターネットってまさに規制できないものの象徴で、それがいろいろなところの業界がこういうものを作り出して公開して、それが新たなビジネスにつながっていくと思うから、多少は規制する必要があるけれど、前提としてはなるべく皆が共有するものとして考えていった方が、今後のビジネスとしては広がっていくんじゃないかなと思いました。

**【司会】**産業って何かって言うと、ペットボトルの水を作る産業ってのはどんなにデジタル化してもなくなる。ものだから。有限で、それは僕らが食べるからね。そういうビジネスもある。一方、Amazonがやっているのはマッチングビジネスで手段でそれは変えられる。コンビニやデパートに行くのが面倒になったのも一つ。映画のコンテンツは絶対になくならない。でも映画の見方は、映画館に行かなくなった、Netflixを見るようになったっていう手段は変わっている。だから僕たちは映画を作る方っていうのは絶対になくならないよっていうのを忘れないようにしなきゃいけないと思います。

**【崔】**でも作る方は、絶対になくならないかもしれないが、利益率っていう視点だと違ってくるのかもしれない。継続できるサステナブルっていうことを考えるとペットボトルは残るけれど、あれだけ富がGAFAに集中しているのを見ていると、やはりものを作るだけではなくて、いかに高く売るか、交渉力がないと搾取されるだけで終わっちゃうと思います。

**【司会】**限界費用ゼロに向かっていますからね。だから理工系のたまされやすい僕たちは、リベラルアーツとして、産業の寿命や価値の創造を設計して、更に彼らはこういう工夫をしているんだということを理解した上でまねされにくく、搾取されにくい職業に就くべきだと思います。

**【学生】**デジタル企業が終えんする、いつまでも続くデジタル企業はないという話でしたが、Facebookの個人情報に対してヨーロッパが規制し始めています。なぜ個人情報を買われるのを皆嫌がっているのかなって

うことを考えると、僕が Facebook をやっているとしたら、ID を集団情報みたいな形にして、こういう男性の人たちが使っている、みたいに、名前っていう情報を消し、大群化させたら個人情報っていう問題は排除されるんでしょうか。

**【崔】** 多分現状でも名前と完全にひも付けて、その情報を広告会社に提供するっていうことはしてないと思うんですが、今アメリカで起きている問題っていうのは格差を生み出しているのではないかって言われています。例えばこの家を買いませんか、高級なものを買いませんか、というのを Facebook 側は所得やどの地域に住んでいるかっていうのを全部データを持っているので、この地域に住んでいる人はお金持ちでかつ所得が高いから、ここの人たちに広告をどんどん出そうとか、そういうことを広告会社に提供しています。でも、それは、余りお金持ちじゃない人たちに対しては、そういう広告が見られないっていう格差を生み出しかねないからいけないよっていうことを生みます。だから今起きている個人情報の問題は名前なのか所得なのかっていう問題はちょっとよく分かっていないです。名前がなくても差別されるということですよ。

**【司会】** 先ほど崔さんから教わったんだけど、私が家を建てる時はローンの金利が変わるんです。それも自動的に。私の個人情報を徹底的に分析して、私の返済能力やクレジットの信頼性を計算する。そういうことをして、例えば私が比較的金金を返すだろうとするなら金利は安いだろうし、そうじゃなかったら金利が高いっていうことも起こってきている。個人の名前を消せばいいじゃんっていうのはそのとおりです。グループにしてね、で、情報としての価値は、ピンポイント化した方がずっと高い。

**【学生】** それは売るためですか。個人情報を会社に売るために？

**【学生】** 企業同士で個人情報の移動があると危険であるということなんだけれど、例えば Facebook の中だけで情報を完結させたら、こういう人がこんな投稿をしていたってだけで、売るっていうことをしなければ問題は無いのではないかと。

**【崔】** 問題がないっていうのはなくて、企業が他の企業に転売するのではなくて自社の中だけでやれば良いという話でしたが、実は自社の中だけでデータを囲っていても、一つの課題が出てきます。金利の話にもつながるけれど、Apple っていう会社は、キャッシュレスなサービスを始めたんです。例えば PayPay の 100 億円キャッシュバックっていうのは皆の個人情報を別のビジネスの源泉にするから 100 億円キャッシュバックできると思うんです。だけど Apple は転売しないって宣言したんです。じゃあ Apple はいい会社なのか、私たちのデータはそういう会社なら守られるのかっていうと、それは違うと

思っています。今、信用格付け、個人の格付けっていうのは中国で起きてます。例えばこの人はどんなふうコンテンツを使っているのか、どんなふう支払いを守っているのかっていうのを中国では自分の借入れ金利に返ってくる。それで、Apple の場合もそれに近いことはしていくんじゃないかなと私は思っています。自社の中だけでデータを囲っていても、この人はよく買い物をするから頻繁にこの広告を出して買い物を誘導させようとか、この人は金融リテラシーが弱いからこんなふう誘導させようとか、そういうこともできると思うんですね。

だから、実はデータを扱うって言うのは転売だけではなくて、自社でしか使わないという企業でも、私たちにってはリスクがあるのかなと思っています。

**【学生】** GAF A も独占市場を築いているけれどそれはなくならないと思うので、GAF A とかに就職した方がいいんじゃないかなっていう気がするんですが。

**【崔】** 私は、それはどうなのか見えないなと思っています。独占禁止法があって、今日本の公正取引委員会がいろいろなものを規制し始めていて商売がしにくくなっている。一生残るかどうかっていうのが分かれば私も就職しているんですが、規制の影響がよく見えないから絶対安全とは言えないと思います。これが分かれば私は株でもうけると思うんです。

**【司会】** 私の考えは、「就職」。「就社」じゃない。何をやりたいかを考えなさい。就社したいじゃなくて、Google で何々をやりたいと言って下さい。私は何々やりたいっていう職を、それにベストな会社を教えてあげます。「社」、なんて当てにならないし、皆 5 年でやめちゃいませんか？ 大きかったり小さかったりそんなのはいいんです。やりたいこと、こういうことをやるべきだということを考えるべきだと思います。一生持つ会社はどうせないです。あるかもしれないけど、それはあなたにとって大した問題じゃない。すごい嫌な思いをして 40 年間働ける場所にすぎない。やりたいこと、可能性、自分の能力を見て就職をして下さい。

**【崔】** やりたいことって何って聞かれても困っちゃいますよね。

**【学生】** 結局、どこへ行っても保証がないなら、やっぱり大企業に行って稼げた方がいいんじゃないですか。

**【崔】** やりたいことっていうのは何歳になっても分からないですよ。一橋大学の楠木先生がよく言っているんですが、好きっていうのは曖昧なんですけれど、嫌いっていうのは敏感に反応しやすいと。だからやりたいことを考えたときに、これが嫌い、これができないっていうことをまず挙げると、自分のやりたいことが見えてくるんじゃないかなと。まあ、好きなようにやるのが一番です。嫌いなことをフォーカスしていけばいいんじゃないかなと思います。私は大企業で 4 年間就職していたんで

す。その後自分で起業して、今商売をやらせて頂いているんですけど、ロジックが通っていない話で命令されたり、パワハラセクハラも大嫌いで嫌だったんです。いろんな嫌いが重なって会社を辞め、今は好きかもしれないことを仕事にできています。自分の中の嫌いっていう感情を大事にするのもいいと思います。体育会系みたいな話になってしまってすみません。

【学生】話が戻るんですが、アメリカはインセンティブがうまくいっているけど、ヨーロッパでGAFAsのような超大企業が生まれたって話は聞かないんですが。

【崔】ヨーロッパは分からないですね。でも同様の終身雇用とか、人が切りにくいか、インセンティブ設計が成果と連動しないというのは、ドイツ・フランス・スペインではよく聞きます。

【学生】トップを走っている産業が不動産からベンチャーに変わったけれど、その次を見つけるためには、どの情報に注目しているのがいいですか。

【崔】それは金持ちと付き合ってみることでですね。お金持ちの人やすごい先生、知識を持っている人っていろいろな情報が入ってくるし、感度が高い人が多いので、そういう人と交流する機会を持った方がいいと思います。でも、ただでは教えてくれません（笑）。彼らが求めている情報や知識を、代わりに提供する必要があります。そうなるためには、闇雲につながりを求めるだけでなく、自分のブラッシュアップのためにも勉強や研究はマストですよ。

【司会】まだいろいろあるかもしれませんが、時間になっちゃうので最後に、これから未来のある学生さんに一言お願いします。

【崔】二つあります。一つは少し前にアメリカのアメリカンエクスプレスのCEOの講演を聞く機会があったんですが、そのときに、中国人と韓国人はリーダーになれるのに日本人は部下にしかなれないって言ったんです。理由は質問しないから。でも皆さん今日こんなに質問して下さったから感動しています。ありがとうございます。これからも、たくさん質問する癖を忘れないで下さい。二つ目は、就職においては親の言うことは聞かないことです。親が見てきている世界と私たちが見ている世界は全然違う未来が待っているんです。就職をするときは親に相談しない。親の意見は聞かない。これが一つの指針になるんじゃないかなと思っています。今日はありがとうございました。でも、親への感謝の気持ちは忘れないで下さいね。

【司会】はい、では終わりにしたいと思います。今日は長い時間参加してくれてありがとうございます。拍手で終わりたいと思います。

【会場】拍手

## 文 献

- (1) 崔 真淑, 30年分の経済ニュースが1時間で学べる, 大和書房, 2019.

(2019年10月17日受付 2019年11月21日最終受付)